

トランスジェンダーの生き難さについての実証研究
(研究の成果発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤森, 雅人, 笹原, 恵 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026641

トランスジェンダーの生き難さについての実証研究

藤森雅人（情報学専攻），笹原恵（学術院情報学領域）

トランスジェンダー（TG）とは，性別を越境しようとするあり方や人という意味であるが，日本では，この概念よりも「性同一性障害」（GID）がよく知られている．GIDは，自らの身体の性に強い違和がある人に対する「診断名」であり，これにより，身体の性を性自認と一致させるための「性別適合手術」（SRS）が可能となる．1998年に埼玉医科大学のSRSを契機に，2003年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が成立している．同法では，戸籍上の性の変更の要件にSRSがあるため，身体の性別こそが社会的な性別という認識が支配的であり，身体の性別を変えることができない／変えない当事者や，SRSが可能ではない未成年の当事者の生き難さにつながっている．本研究では，TG当事者にインタビュー調査を通して，このような当事者の生き難さを明らかにするものである．